

夏だけのせみ

代田中・1 太田 咲葵

夏休み 外に出るとせみがいる
ミンミン ジージー ギャーギャー
うるさい 不快 邪魔 嫌い
こっちは朝から部活動でねむいのに
ねむい私をあおるように
せみは 目の前を 横切った
迷惑って言葉 知ってますか

部活動帰り 木を見上げるとせみがいる
鳴いて 飛んで また鳴いて
たくさんのせみで 大合唱
別になれたからいいけどさ
でも 両耳から全員ボーカルのライブ
さすがに耳が狂いそう
このライブ 音量調節は可能ですか
部活動が始まる時刻が早くても
やっぱり どこかにせみはいる
早く秋になればいいのに
そう思った瞬間 頭にうかんだ思考
そっか せみは夏しか知らないんだ
秋の色とりどりの景色も

少しずつ寒くなつていく感覚も
冬のひんやりと澄んだ空気も
空から落ちてくる氷の粒も
春に見られる満開の花たちも
ほおにかかる暖かい風も
せみは知らないんだ
秋や冬や春でもせみは土の中で
ゆっくり生きているかもしれない
でもせみの目に 四季の美しさ全部が
映ることは 絶対がない
足元で動かないせみを見つめた
四季の楽しさを知っていますか

せみの命は約一週間 長くても数週間
私みたいな人間と比べると
とても短い命だ
でも 人間にも命はある
八十年 長くても百年
せみとは差がともある
けれど 八十年生きたとしても
見ることのない景色は たくさんある
せみが 四季の楽しさを知らないことと
同じように
そう考えると せみの鳴き声は
少し短調のようになって 聞こえてくる
せみも人間も似ているのだな

夏休み 外に出るとせみがいる
せみは 今日鳴いている
今この一瞬一瞬を
大切にしているみたいに
今を精一杯 生きているかのように
この夏を
最高の夏にしようとしているように
私はせみが鳴いている方向に
そつと顔を向けて 少し目を細めた
単純な所に答えはあったのかもしれない